

# 株式会社日新 2017年3月期第2四半期 決算説明会

~為替の影響を受けつつも、自動車を中心に  
取扱いは堅調推移~

証券コード: 9066

# 目次

- 2017年3月期第2四半期 実績 P. 3
- 2017年3月期 計画 P. 11
- 中期経営計画の進捗状況 P. 17
- 特集 : 日新の欧州事業 P. 22

# 2017年3月期第2四半期実績

～為替の影響を受けつつも、取扱いは堅調推移～

# 第2四半期連結損益計算書サマリー

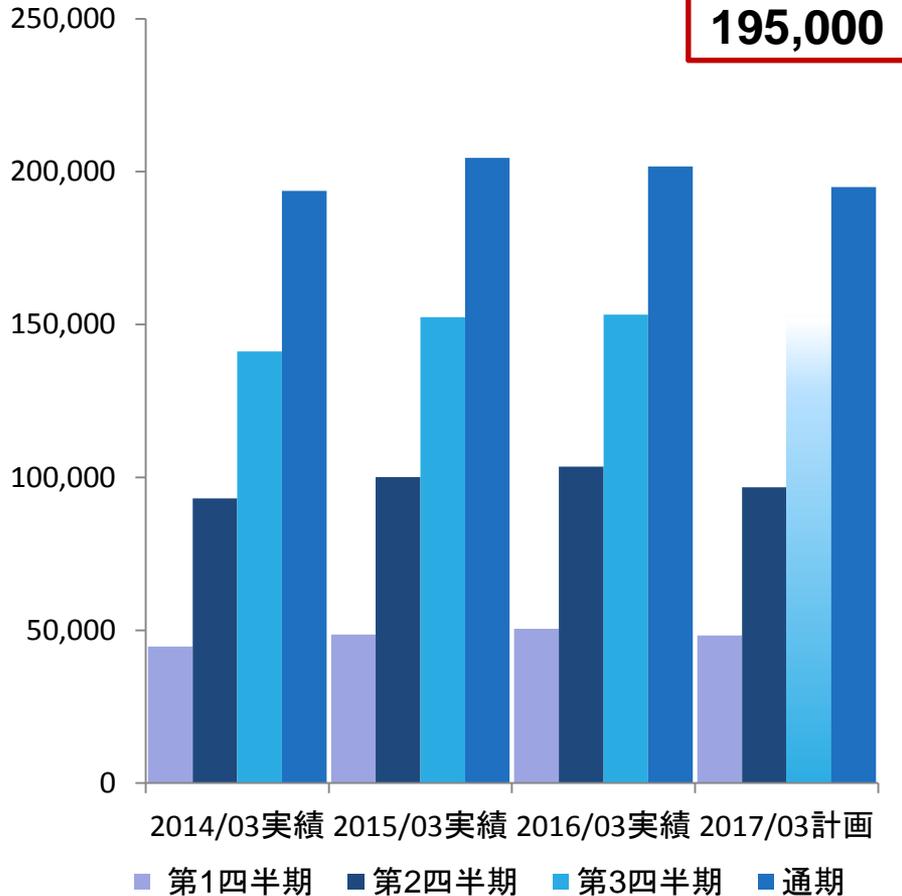
- 為替変動の影響を受け、前期比・計画比ともに減収減益

(単位:百万円)	16.3期 第2四半期 実績	17.3期 第2四半期 計画	17.3期 第2四半期 実績	前期比	計画比
売上高	103,551	105,000	96,744	△6,807 (93.4%)	△8,256 (92.1%)
営業利益	2,821	3,000	2,347	△474 (83.2%)	△653 (78.2%)
経常利益	2,957	3,100	2,536	△421 (85.2%)	△564 (81.8%)
当期利益	1,954	2,000	1,797	△157 (91.9%)	△203 (89.9%)

# 四半期別業績推移

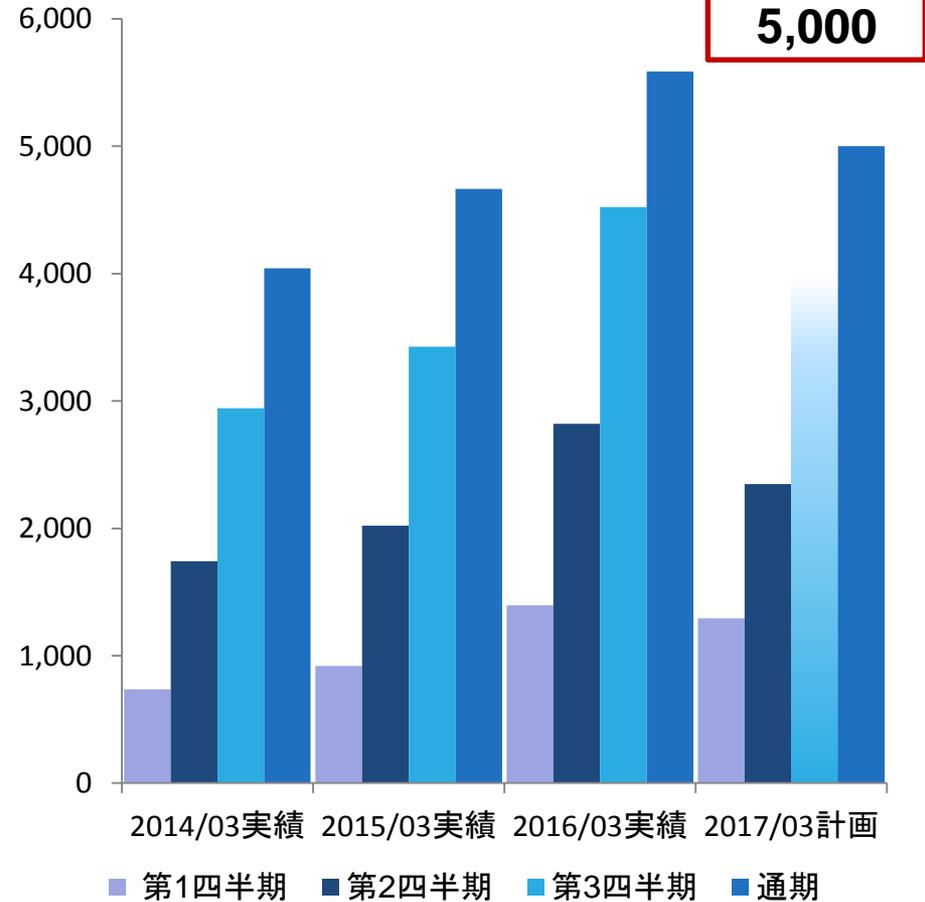
## 売上高

(単位:百万円)



## 営業利益

(単位:百万円)



# 2017年3月期第2四半期決算のポイント

## 減収要因

- 為替変動
- 燃料サーチャージ低減
- 日中間コンテナ船のターミナル取扱量減少

## 減益要因

- 為替変動
- ターミナル事業のコスト増加
- 北米西岸港湾混乱の反動
- 退職給付費用・ESOP信託制度費用の増加

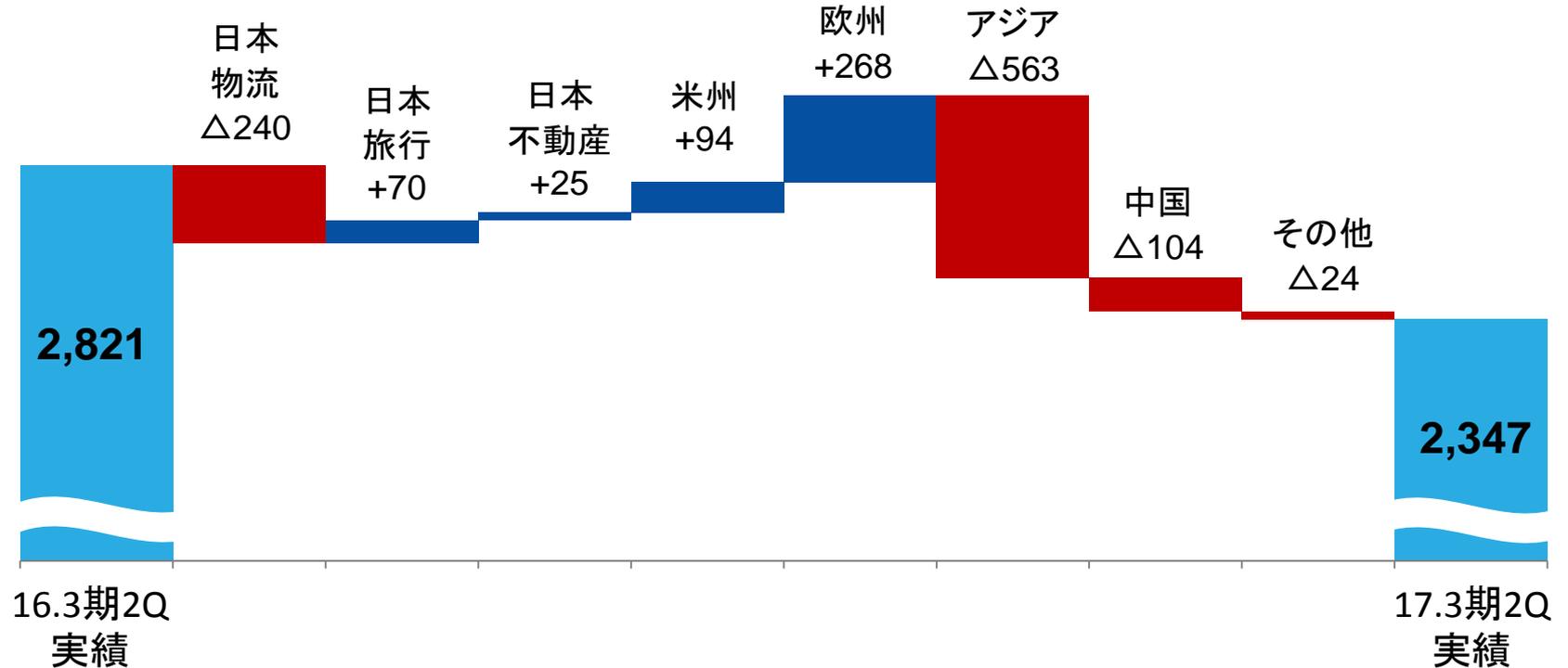
# 2017年3月期第2四半期 地域別実績

(単位:百万円)	2016年3月期 第2四半期		2017年3月期 第2四半期			
	売上高	営業利益	売上高		営業利益	
	実績	実績	実績	前期比	実績	前期比
日本	72,963	1,527	72,314	△649	1,358	△169
米州	8,229	101	6,476	△1,753	195	94
欧州	4,874	47	4,612	△262	315	268
アジア	11,214	793	8,607	△2,607	230	△563
中国	6,271	353	4,735	△1,536	249	△104
合計	103,551	2,821	96,744	△6,807	2,347	△474

# 2017年3月期第2四半期営業利益の増減要因分析

■ 欧州は好調に推移するも、為替の影響に加え、日本、アジア、中国は前年を下回り減益

(単位:百万円)



※「その他」は、連結処理等

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 営業利益の増減要因

(単位:百万円)

地域	2016.3期2Q 実績対比	為替による 影響	要 因
日本物流	△240	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 港湾における輸出入貨物の減少</li> <li>■ 船社アライアンス再編による日本寄港船の減少</li> <li>■ 退職給付費用・ESOP信託費用の増加</li> </ul>
日本旅行	+70	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務渡航、MICE事業の堅調</li> </ul>
日本不動産	+25	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 遊休不動産の活用</li> </ul>
米州	+94	△39	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ メキシコ自動車関連の好調</li> </ul>
欧州	+268	△76	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規自動車関連ミルクラン業務開始</li> <li>■ 自動車イベント関連の堅調</li> <li>■ ポーランド倉庫増床</li> </ul>
アジア	△563	△54	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 主力のタイにおける景気停滞</li> <li>■ 北米西岸港湾混乱の反動による減少</li> <li>■ マレーシアにおけるコスト増加</li> </ul>
中国	△104	△58	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電機電子関連の減少</li> </ul>

# 2017年3月期の重点施策の進捗

重点施策	具体的取組み	第2四半期進捗
海外事業	■ 新規顧客の取り込みによる裾野の拡大	グローバルアカウントの取組み
	■ 自動車部品物流の拡大(メキシコ・タイ・英国)	英国ミルクラン開始 メキシコ事業拡大
	■ 航空事業の拡大(ベトナム・インド・インドネシア)	航空営業体制の強化
	■ 内需に対応するハードの構築(中国)	上海倉庫移転・拡張を計画
国内事業	■ 食品、医療、危険品業務の拡大	地方空港発食品拡大
	■ 収益性のある施設への転換	解体着手
	■ 陸上輸送業務の効率化への取組み	取組中
	■ ターミナル事業の再編、効率化	横浜港ターミナル集約
経営基盤	■ 海外人材育成	海外研修員派遣 現地採用社員の幹部登用
	■ グローバルリスクマネジメント体制の強化	リスク管理委員会設置

# 2017年3月期 計画

~為替動向が不透明であるものの、自動車関連、  
倉庫業務等の拡大により計画の達成を目指す~

# 2017年3月期 通期計画

- 為替動向が不透明であるものの、自動車関連、倉庫業務等の拡大により計画の達成を目指す

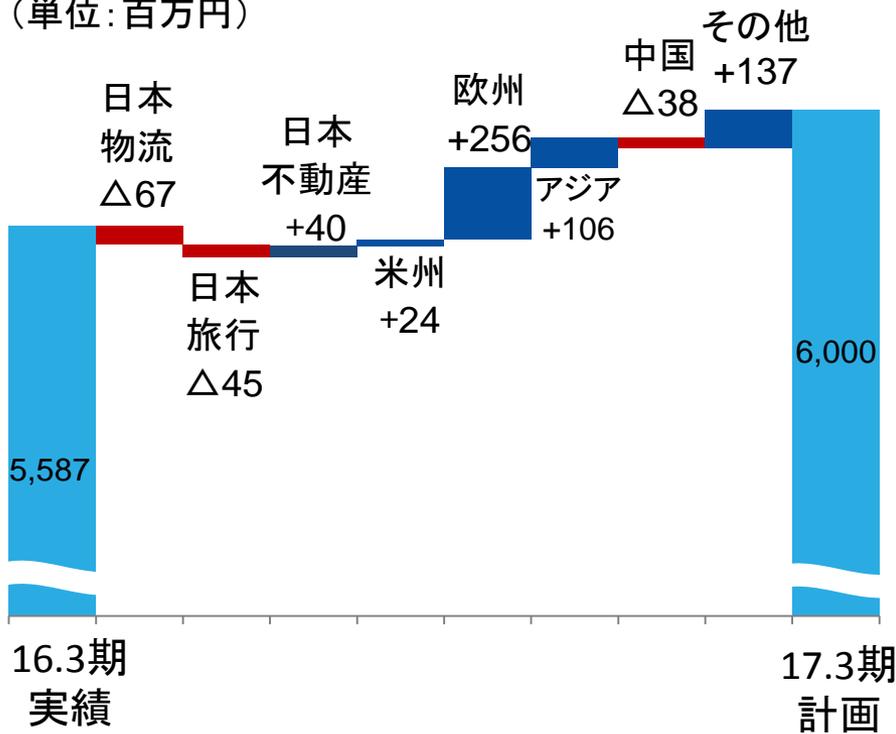
(単位:百万円)	2015年3月期 実績	2016年3月期 実績	2017年3月期 期初計画	2017年3月期 修正計画 (2016/11/7)	前期比
売上高	204,461	201,705	210,000	195,000	△6,705
営業利益	4,664	5,587	6,000	5,000	△587
経常利益	5,135	5,887	6,200	5,200	△687
当期利益	2,447	3,196	4,000	3,600	404
営業利益率	2.3%	2.8%	2.9%	2.6%	—

# 2017年3月期 地域別通期計画(営業利益)

- 日本、アジア、中国の状況は厳しいものの、欧州は引き続き好調に推移する見込み

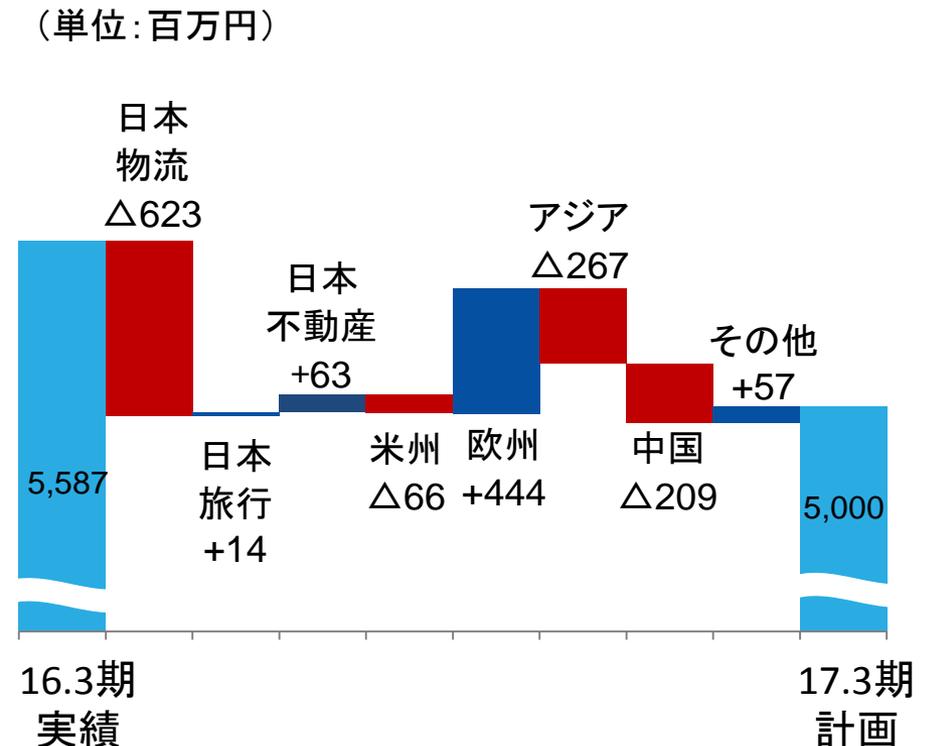
## 期初計画

(単位:百万円)



## 修正計画

(単位:百万円)



※「その他」は、連結処理等

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 営業利益の増減要因

(単位:百万円)

地域	期初計画	修正計画	対比	為替影響	要因
日本物流	△67	△623	△556	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ターミナルにおける取扱いの減少とコスト増</li> <li>■ 電機電子関連の減少</li> <li>■ 退職給付費用・ESOP信託費用</li> </ul>
日本旅行	△45	+14	+59	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アジア、北米向け業務渡航の堅調</li> <li>■ MICE事業増加</li> </ul>
日本不動産	+40	+63	+23	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 土地賃貸事業の増加</li> </ul>
米州	+24	△66	△90	△58	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車関連特需案件の終息</li> </ul>
欧州	+256	+444	+188	△103	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自動車関連ミルクラン業務の好調</li> <li>■ ポーランドの配送センター業務の堅調</li> </ul>
アジア	+106	△267	△373	△133	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイ経済の減速による物量の減少</li> <li>■ インドにおける倉庫・トラック事業の稼働率低下</li> </ul>
中国	△38	△209	△171	△107	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 電機電子関連の減少</li> </ul>

# 2017年3月期通期計画のポイント

## 収益増加 の取組み

日本:グローバルアカウント・マネジメントによる顧客の深耕化  
地方空港発食品輸出のさらなる拡大  
ターミナル集約効果によるコスト削減  
新規航路開設によるターミナル取扱いの増加  
守谷倉庫営業所開設

米州:米国内物流の拡大、南米市場の開拓

欧州:ミルクラン業務・倉庫業務の拡大

アジア:自動車部品、機械部品を中心とした取扱いの拡大  
日本食材輸入の増加

中国:国内市場向け配送センター業務の拡大

2017年3月期の為替想定レート USD=¥101、EUR=¥113、GBP=¥131、THB=¥2.91、  
CNY=¥15.46

【為替換算差】米ドル、ユーロは1円の変動で、売上高500百万円、営業利益22百万円の影響

# 今後の主な投資案件

地域	案 件		用途	進捗状況
海外	米 国	■ オハイオ倉庫取得	自動車 関連	2017年7月 取得予定
	中 国	■ 上海新倉庫	中国内 消費財	2017年1月以降リースにて対応 自社倉庫建設は別途検討中
	アジア	■ マレーシア・マラッカ倉庫建設	自動車 関連	2017年秋以降
国内	横浜地区 物流施設 再開発	■ 神奈川埠頭倉庫	未定	2018年以降再開発開始予定
		■ 本牧埠頭地区新倉庫建設	未定	2017年以降
	■ 大井事業所新倉庫建替え	未定	2016年9月 解体工事開始	
	■ 福岡アイランドシティ 新倉庫建設	冷凍・冷蔵 一般	2016年4月 港湾関連用地 取得 2018年3月 以降引渡し	
	■ 北仲通北地区再開発	商業施設 等	2017年以降	

# 中期経営計画の進捗状況

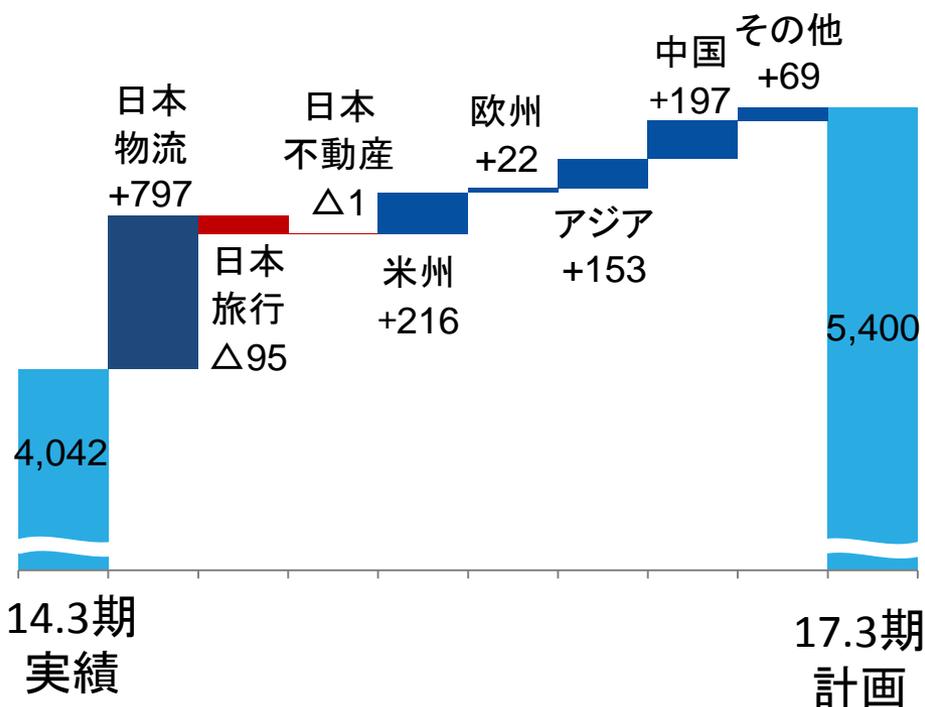
~第5次の総括と第6次への展望~

# 第5次中期経営計画3カ年での営業利益推移

- 為替変動、人件費の増加、日中間物量の減少により未達の見込み

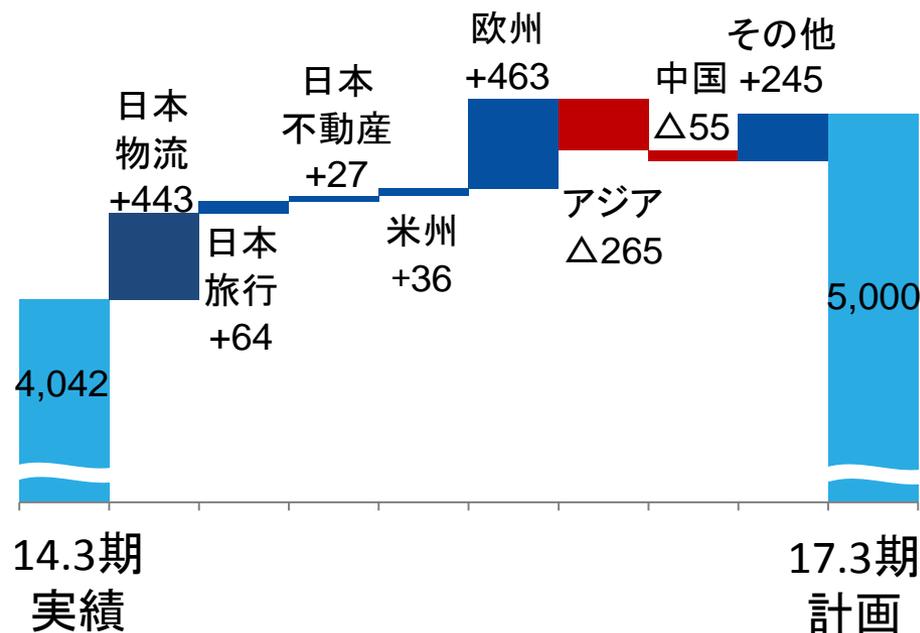
## 当初の3カ年計画

(単位:百万円)



## 2カ年実績+最終年度見込み

(単位:百万円)



※「その他」は、連結処理等

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

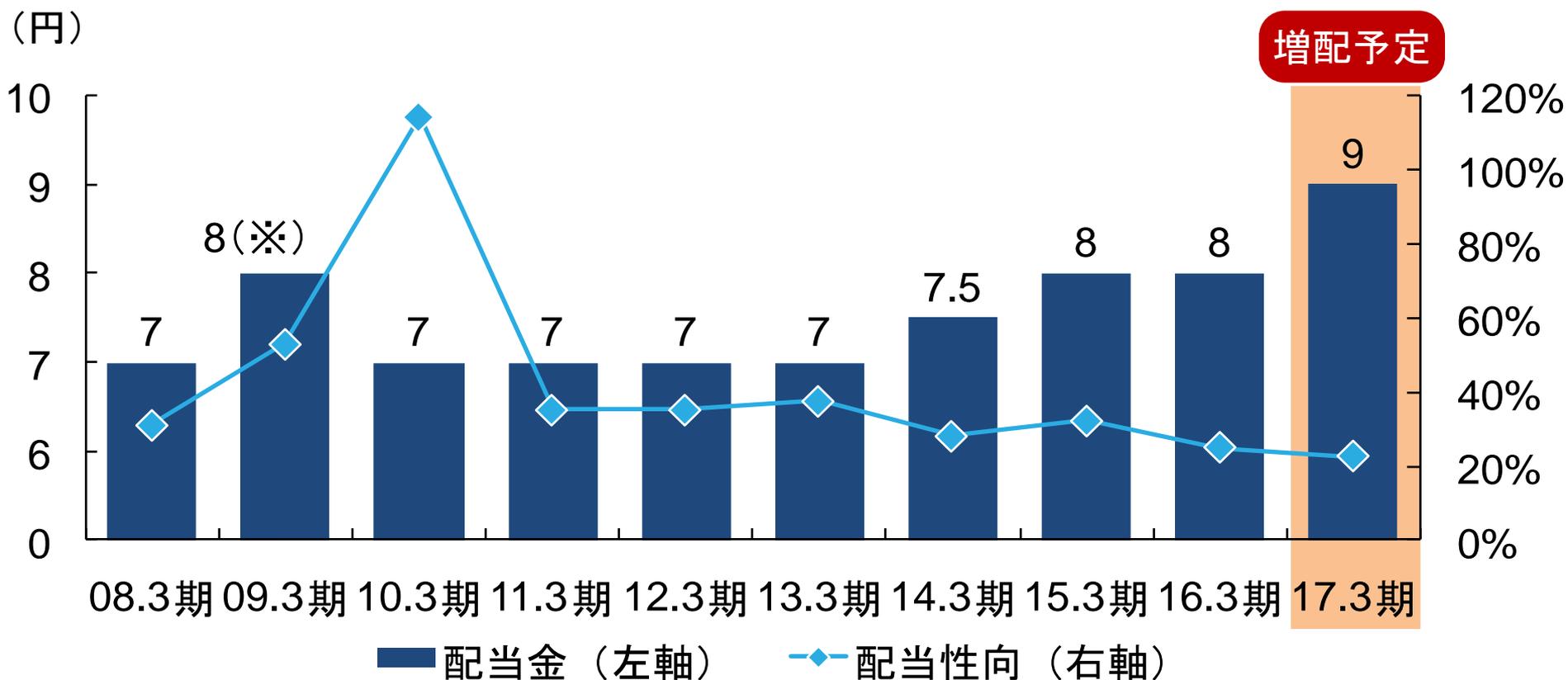
# 第5次中計の総括と第6次での課題

## ■ 第5次で基盤強化を達成。第6次は顧客獲得と収益強化を柱とする

項目	地域	第5次のテーマ	第5次での具体的取り組み	第6次での課題
海外事業の強化	米州	自動車の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 米国倉庫新規開設(オハイオ、カリフォルニア)</li> <li>■ メキシコ航空事業自営化(グアダラハラ、メキシコシティ)</li> </ul>	さらなる拠点の拡大
	欧州	基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ドイツ日新支店開設(オランダ・ティルブルグ)</li> <li>■ 自動車部品ミルクラン業務開始(英国)</li> </ul>	ローカルアカウントの深耕化
	アジア	拠点の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ラオス・インドネシアでの通関業務自営化</li> <li>■ タイ拠点拡充(プラチンプリ)</li> <li>■ インド拠点拡充(アーメダバード、ボパール)</li> </ul>	物流品質の向上
	中国	収益の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内市場向け配送センター業務の拡大(上海・北京・天津・昆山)</li> <li>■ 海上(NVOCC)プロキュアメントセンター設置(香港)</li> </ul>	内需拡大に対応した取組み
国内事業の再構築		組織と拠点の再構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 山下地区、神奈川埠頭倉庫、大井事業所再開発着手</li> <li>■ 福岡市アイランドシティ港湾用地取得</li> <li>■ 陸運事業の再編</li> </ul>	継続と具体化
経営基盤の強化		効率的組織への再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 業務高度化と組織再編</li> </ul>	継続と具体化
		資産の効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不動産の有効活用(京浜ビル跡地、北仲通り)</li> <li>■ 物流品質の改善</li> </ul>	
		リスク管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 監査等委員会設置会社への移行によるガバナンス体制の強化</li> <li>■ リスクマネジメント体制構築、グローバル安全基準ガイドライン策定</li> </ul>	
		人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバル人材の確保および育成 ⇒ 海外研修員制度開始 現地採用社員の幹部登用</li> </ul>	

# 配当政策

## ■ 安定的配当の継続が基本、17.3期増配予定



# 本日のまとめ

## 17.3月期 第2四半期 実績

- 為替変動の影響等を受け、減収減益
- 米州、欧州での自動車関連輸送が堅調に推移

## 17.3月期 通期計画

- 為替動向が不透明であるものの、自動車関連、倉庫業務等の拡大により計画の達成を目指す

## 中期経営計画の 進捗状況

- 第5次で構築した基盤を活かし、第6次は顧客獲得と収益強化を図る

# 特集 日新の欧州事業



## 1. 海外進出の沿革

## 2. 欧州の事業戦略



自動車物流の強化と地場企業カスタマーベースの構築

2-1 英国日新 ..... ミルクラン

2-2 ポーランド日新 ... 地場企業向けサービス

## 3. 地域別営業利益と物量構成

## 4. 今後の欧州における取組み

# 1. 海外進出の沿革

西暦	米州	中国(香港を含む)	欧州(中東を含む)	アジア
1973年	アメリカ合衆国			
1974年		香港		
1975年			英国(ロンドン支店)	
1983年				シンガポール
1984年	カナダ		英国(現法)	
1985年			西ドイツ	
1987年			オーストリア	タイ
1988年			スペイン	
1992年		上海高信	フランス	
1994年				マレーシア
1995年		常熟日新		
1997年		江蘇日新	ベルギー	
1998年			アラブ首長国連邦	フィリピン
1999年		天津日新		インド
2000年	メキシコ	北京三新冷蔵		
2003年		広州日新		
2004年				インドネシア
2005年		日新中外運 / 日新日倉	ロシア	
2006年				ベトナム
2007年			ポーランド	
2012年				ラオス
2015年			オランダ(ドイツ日新・支店)	カンボジア(駐)

自動車・家電の  
欧州進出フォロー



# 2. 欧州の事業戦略：地場企業カスタマーベースの構築

## ■ 2-2 ポーランド日新……地場企業向けサービス

ポーランドでなぜ日系以外の顧客を獲得出来ているのか？

### 1. 倉庫立地条件の良さ

産業立地とは言えないポーランド北部にAクラスの大規模倉庫を有する

### 2. Made in Japanの倉庫業務品質

日系家電メーカーの液晶テレビ倉庫業務を通じて鍛えられた業務品質(客先の要望を出来るだけ聞き入れ実現するという顧客視点の柔軟な対応)



# 3.地域別営業利益と物量構成

(2016年3月末 単位:百万円)

		営業利益			物量				
		参考 (2011.3)	実績	比率	海上(NVOCC)		航空		
					輸出 (R/T)	輸入 (R/T)	輸出 (C.WT)	輸入 (C.WT)	
日本		2,990	3,358	60%	101,598	86,079	30,890	18,444	
海外	米州	271	386	海外内 比率	18%	13,528	35,726	9,150	8,160
	欧州	408	57		2%	2,191	7,107	2,384	5,772
	アジア	237	1,049		47%	37,755	44,106	9,651	11,271
	中国	351	737		33%	60,758	27,735	17,543	15,605
海外合計		1,267	2,229	40%	114,232	114,674	38,728	40,808	
合計		4,257	5,587	100%	215,830	200,753	69,618	59,252	

※ 数値は、各地域の業績を分かりやすく説明するための社内集計値

# 4. 今後の欧州における取組み

## 1. 自動車関連

ドイツ日新を中心に、下記大陸側ベンダーとの取引を計画

- ・フランクフルト、シュツットガルト、ミュンヘン、デュッセル近郊のベンダー販社
- ・中東欧5カ国の主要ベンダー工場

## 2. その他

ポーランド日新における成功事例をもとに、  
欧州全域での現地顧客の獲得推進

- ・東ヨーロッパへの進出
- ・トルコ市場への取組み



東ヨーロッパや  
トルコへの  
ビジネス拡大

ご静聴ありがとうございました